

あ行

アテローム性冠動脈硬化症(あてろーむせいかんどうみやくこうかしょう)

冠動脈疾患で心筋へ血液を運ぶ冠動脈の内壁がでこぼこ厚くなり、その結果内腔が狭くなり血流が阻害されてしまう。

アテローム性動脈硬化症(あてろーむせいどうみやくこうかしょう)

動脈硬化症の一種で血管内壁が表面に発生し、血管内腔を狭めてしまう。

安静時狭心症(あんせいじきょうしんしょう)

安静にしているときに起こる狭心症。心筋梗塞になりかかっている場合と、血管のけいれんで起こっている場合がある。後者は深夜や明けがたに多く、何回もくりかえすことがあり、血管れん縮性狭心症または異型狭心症ともいう。

安定狭心症(あんていきょうしんしょう)

どのくらいの動作で発作が起こるかある程度予測できる狭心症。

異型狭心症(いけいきょうしんしょう)

安静時狭心症の項参照。

一回拍出量(いっかいはいくしゅつりょう)

心室が一回の収縮で駆出する血液量。

植込み式除細動器(うえこみしきじょさいどうき)

あらかじめ心臓に植え込み、心停止が起こったときに自動的に電気ショックを加えて心臓が再び動くようにする器械。ICD(アイシーディー)とも呼ばれている。

運動負荷心電図(うんどうふかしんでんず)

安静時には症状が出ず、動いたときに症状が出る労作性狭心症の診断のために、自転車に乗ったり階段ののぼりおりをしたりして運動時の心電図変化を調べる方法。

か行

開心術(かいしんじゅつ)

心臓を開いて行う手術。この言い方は心臓を開かないで行う心臓手術に対しても用いられる。

拡張型心筋症(かくちょうがたしんきんしょう)

原因不明の心筋疾患で、心筋の収縮力が低下して、左室の壁が薄くなり内腔が大きくなって、心臓ポンプの機能が低下する。うっ血性心不全や不整脈、血栓塞栓症をきたしやすい。

カテーテルアブレーション

高周波電流によって心筋の一部を焼き切り、不規則な電気信号を根本的に起こらなくする手術。心房粗動や、WPW 症候群、発作性上室性頻拍などに有効。

冠状動脈(かんじょうどうみやく)

大動脈の基部から発生し、心筋へ血液を運ぶ血管。冠動脈は広く枝分かかれし、冠のように心臓の表面を下降している。

冠動脈 及び 心疾患(かんだうみやく および しんしつかん)

冠動脈疾患、あるいは虚血性心疾患とも呼ぶ。冠動脈が狭窄し、血液供給が不足(虚血)するために起こる心臓の病気。

冠動脈形成術(かんだうみやくけいせいじゆつ)

冠動脈の狭くなった部分を、カテーテルを使って広げる手術。バルーン(風船)やステント(網目状の金具)、高速回転するドリル(ローターブレード)などを用いて行う。

冠動脈血栓(かんだうみやくけっせん)

冠動脈の一部に血液の固まりが発生すること。

冠動脈造影検査(かんだうみやくぞうえいけんさ)

心臓の血管までとどくように足のつけ根や腕の動脈から細い管(カテーテル)を入れ、冠動脈に造影剤を注入して、どの部分がどのくらい狭くなっているのか透視する検査。心臓カテーテル検査の一種。

冠動脈バイパス or A-C バイパス(かんだうみやくばいぱす 又は A-C ばいぱす)

冠動脈が狭窄し、心臓がポンプとして働くために必要な酸素を、含んだ血液の供給が阻害された時に行う外科的手術。血液が阻害されると狭心症、しいては心筋梗塞の危険性を増大させてしまうので、その狭くなった血管を迂回してバイパスを作り血行再建を図る。

冠動脈バイパス術(かんだうみやくばいぱすじゆつ)

心臓への血流を保つために、からだの他の部分から血管を持ってきて血流の迂回路をつくる手術。CABGともいう。

冠動脈不全(かんだうみやくふぜん)

冠動脈が心臓の働きに必要な酸素を供給できない状態は、全てこう呼ぶ。この状態は、胸痛(狭心症-Angina Pectoris)あるいは心臓発作を引き起こす場合と痛みのないものがある。急性冠動脈不全は、狭心症よりももっと症状がひどい胸痛を言い表す言葉。

冠動脈閉塞(かんどうみやくへいそく)

冠動脈の一部が閉塞してしまうことにより、心筋の一部への血液供給が止まり、それにより、心筋のこれらの部分は酸素不足から壊死してしまう。

冠れん縮性狭心症(かんれんしゆくせいきょうしんしょう)

安静時狭心症の項参照。

期外収縮(きがいしゅうしゆく)

「期外収縮」の70～80%は無症状で、症状が出る場合は、脈が一瞬つまずく感じで、不規則な動悸やめまい、胸部の不快感を感じることもあります。自覚症状があっても心臓に病気がない人の期外収縮はとくに治療の必要はありません。

期外収縮(きがいしゅうしゆく)

洞房結節以外の場所から速いタイミングで電気信号が発生することによる不整脈。

期外収縮(きがいしゅうしゆく)

心臓が正常なリズムとは別に不正常的な刺激によって、突然収縮したりすること。

危険因子(きけんいんし)

冠動脈疾患の罹患率を増大させる因子として、高血圧、高コレステロール値、喫煙、肥満、糖尿病、家族の病歴をあげている。

器質性心臓病(きしつせいしんぞうびょう)

心臓を中心とした循環器系統の構造的欠陥による心臓病。

狭窄(きょうさく)

血管や弁が狭くなっていること。僧帽弁狭窄症(Mitral Stenosis)や大動脈弁狭窄症(Aortic Stenosis)等は、弁の開き方が狭く正常な機能を果たせなくなった状態をいう。

狭心症(きょうしんしょう)

心臓への酸素供給が不足して起こる一時的な胸痛。多くの場合、狭心症は、心筋への血液を供給している冠動脈が硬化したり、狭くなったりする事が原因で血液の流れが制限されてしまうために起こる慢性疾患。

狭心痛(きょうしんつう)

心筋に血液や酸素がいきわたらなくなることによって起きる症状。胸が苦しくなって痛みや絞めつけられるような症状があらわれる。症状は一時的で数十秒から長くても10分くらいで自然におさまる。

胸部 X 線検査(きょうぶえつくすせんけんさ)

胸のレントゲン。

虚血(きょけつ)

血管の狭窄あるいは閉塞が原因で起こる身体の一部に対する一時的な酸素不足。

虚血性心疾患(きょけつせいしんしつかん)

血液が十分に心筋にいきわたらなくなると心臓は酸欠(虚血)状態となる。これが、狭心症や心筋梗塞とよばれるもので、この2つをまとめて虚血性心疾患という。

血管造影(けっかんぞうえい)

血管内に放射線不透剤を注入する診断法。造影剤注入後、胸部をX線で観察すると心臓や大血管の内部形状が確認できる。

血行再建術(けっこうさいけんじゅつ)

カテーテルを使って狭くなった血管を拡げる治療。血管のなかで風船をふくらませる PTCA(風船療法)やステントという金属の網でできた管を血管の中に留置して再発を防ぐ方法がある。

血漿(けっしょう)

血液中の液体成分で、諸種血球はこの中に浮遊液となって血液を形成している。血液が凝固した後得られる、血清とは別である。

血小板(けっしょうばん)

血液中に存在する三種類の構成成分の一つ。文字通り“小板”で小さく無色で板状をした血液凝固を促す働きをする。これは、またスロンボサイトとも呼ばれる。

血栓(けっせん)

血管の内側にできた血のかたまり。閉塞の原因になる。

血栓症(けっせんしょう)

血管あるいは、心臓の中に存在する血液の固まり。

血栓除去術(けっせんじょきよじゅつ)

血管内の血栓を取り除く手術法。

血栓塞栓症(けっせんそくせんしょう)

心臓や血管の壁にできた血栓がはがれて血流にのり、その先にある細い動脈をふさいでしまうこと。

血栓溶解剤(けっせんようかいざい)

血栓を溶かす物質、繊維素溶解剤ともいう。二つの代表的な薬剤として、ウロキナーゼやt-PAが知られている。

交感神経(こうかんしんけい)

自律神経を構成する交感神経と副交感神経は相反する働きを持ち、必要に応じてどちらかが自動的に強まり、臓器や器官の働きを調整している。たとえば運動時に心臓の拍動を早くしたり血管を収縮させたりするのは、交感神経が活発になるためである。

抗血液凝固剤(こうけつえきぎょうこざい)

血液を固まりにくくする薬。血管が血液の固まりによって閉鎖した場合に投与すると、新しい血栓の形成やその血栓が大きくなるのを防ぐか、血栓を溶かす作用はない。薬剤としてヘパリン、クマリン等がある。

コレステロール

動物の組織中にみられる脂肪質。値が高すぎると冠動脈のアテローム性動脈硬化症のような重大な疾患を招くことがある。

細動(さいどう)

不整脈の一種で個々の心筋繊維が相互不調和な活動をするために起こる調整できない心筋の収縮。

さ行

細動脈(さいどうみやく)

最も細い動脈(約 0.2mm あるいは 1/25 インチ 径)。動脈が繰り返し枝分かれした末梢である。これらの血管の働きは動脈から毛細血管へ血液を運ぶことである。

左室駆出率(さしつくっしゅつりつ)

左心室から全身へ血液をおし出す力。心臓のポンプ機能のめやす(55%を超えていれば正常)。心臓超音波検査でわかる。LVEF または EF とあらわされることもある。

三尖弁(さんせんべん)

右心房と右心室の間にある三枚状の弁。その位置は左心にある僧帽弁(Mitral Valve)とつり合っている。

自転車エルゴメーター(じてんしゃえるごめーたー)

運動負荷試験のひとつで、自転車をこぎながら心電図の変化や酸素消費量と二酸化炭素排出量などを調べる。

心房細動・心房粗動(しんぼうさいどう・しんぼうそどう)

「心房細動」は電気信号が心房全体からバラバラに発生している状態で、加齢とともに起こりやすくなります。健康な人でも飲酒後の翌朝やストレスによって起こることがあります。強い動悸や息切れの原因となるだけでなく、心房細動によって左心房の中に血栓という血のかたまりが出来やすく、血栓が心室を通り抜けて肺や脳の細い血管を詰まらせる塞栓症という疾患を引き起こします。

12 誘導心電図(じゅうにゆうどうしんでんず)

一般的な心電図検査のことで、両手、両足、胸の前方の6カ所に電極をつけて、心臓全体の電気の流れを調べる。

粥腫(じゆくしゆ)

血管壁に脂肪の小粒が発生した状態。アテローム性動脈硬化症の特徴。

症候群(しょうこうぐん)

種々の症状が同時に発生した状態を指している。

静脈(じょうみやく)

循環器系の様々な血液で、身体の各部分から心臓へ戻る血液を運ぶ血液。全ての静脈は肺静脈を除いて酸素化されていない血液を運ぶが、肺静脈は肺で酸素化された血液を心臓に運ぶ。

徐脈(じよみやく)

1分間の脈拍が50以下と極端に遅くなる状態。

心外膜(しんがいまく)

心臓の外側の膜。

心筋炎(しんきんえん)

心筋の炎症。原因としては化学物質、薬、外傷(電気ショックや過剰なX線治療)その他がある。

心筋梗塞(しんきんこうそく)

冠動脈の内腔がつまってその先の心筋に酸素が届かず細胞が死んでしまった状態。非常に強い胸痛がある。

心筋梗塞(しんきんこうそく)

心筋が血液供給を受けられなくなって、その部分が壊死してしまうこと。

心筋層(しんきんそう)

心臓の筋肉層で心内膜と心外膜の中間にあり、三層の中で最も厚い。

人工心肺(じんこうしんぱい)

心臓手術の間、体外において血液の酸素化をした後ポンプで再び体内に戻す器械。

心室(しんしつ)

心臓の中で、ポンプとして働いている二つの部屋の一つ。左心室は酸素化された血液を、動脈を通して体内に送り出し、右心室は酸素化されていない血液を、肺動脈を通して肺に送る。通常大人の場合、その容量は各々85ccである。

心室細動(しんしつさいどう)

心房細動と同じように、不調和な収縮を呈し血液循環の急激な低下を招き死亡する結果となる。救急治療法として、心外マッサージ(Cardio-pulmonary Resuscitation: CPR)、除細動器、薬物等がある。

心室細動・心室粗動(しんしつさいどう・しんしつそどう)

心室が高頻度に収縮する頻脈性の不整脈。心室細動はその回数がより多く無秩序なため心停止をきたし、突然死の引き金になる。

心室中隔(しんしつちゅうかく)

左と右の心室を分けている筋肉の壁。

心室同期障害(しんしつどうきしょうがい)

ほぼ同時に全体に伝わるはずの心臓の電気信号に、何らかの原因で早く伝わる部分と遅く伝わる部分ができてしまい、心室がいびつな動きをしている状態。

心室頻拍・心室細動(しんしつひんぱく・しんしつさいどう)

頻脈性不整脈のなかで怖いのは、「心室頻拍」や「心室細動」で、急に意識が消失したり、突然死の引き金にもなったりしりする。

心収縮期(しんしゅうしゅくき)

一回の心臓の鼓動における収縮している間の事。

心房収縮期(Atrial Systole)は心房が収縮している時を、心室収縮期(Ventricular Systole)は、心室が収縮している時をさす。

心尖(しんせん)

鋭く丸みを帯びた心臓の最も下の部分で、通常下向き左前傾を向いている。

心臓核医学検査(しんぞうかくいがくけんさ)

微量の放射性物質を使用して心筋や心筋の断面を撮影して、心臓の動きや虚血、梗塞などを調べる検査。

心臓周期(しんぞうしゅうき)

心臓の一回あたりの収縮期の始めから弛緩期の終わりまでを指す。一回のサイクルは約0.9秒で、この間には収縮及び拡張の動作が含まれている。

心臓超音波検査(しんぞうちょうおんぱけんさ)

心臓の形や動きを断層撮影することによって調べる検査。心エコー検査ともいう。

心臓発作・心臓麻痺(しんぞうほっさ・しんぞうまひ)

心筋の壊死により起こる病気。死に至るか否かはその程度による。この疾患は通常心筋へ血液を送っている冠動脈が閉塞した時に起こる。症状としては胸・首・肩等の痛み、吐き気、冷や汗、息切れ等があり、重症なものまで様々である。

心臓予備(しんぞうよび)

人が休んでいる時の心拍出量(約5リットル/分)と激しく運動している時(約25リットル/分)との違い。心臓の予備力のこと。

心拍出量(しんぱくしゅつりょう)

心臓から一分間に送り出される血液の量。

心不全(しんふぜん)

心臓がポンプとしての機能を果たせなくなった状態であり、さまざまな心臓の病気が原因で起こる。

心ブロック(しんぶろく)

「房室ブロック」・「洞房ブロック」など電気信号が正常に伝わらない徐脈性の不整脈のこと。

心房細動(しんぼうさいどう)

非常に速い不調和な心房の収縮で、突然に発生し時間は短い。心臓病(弁疾患・冠動脈硬化・高血圧等)を持っている人は慢性になりやすい。治療法としては、通常、薬物や除細動器等がある。

心房粗動(しんぼうそどう)

心臓の病気を持つ人にみられる頻脈性の不整脈。カテーテルアブレーションによる治療が有効。

心房中隔(しんぼうちゅうかく)

左と右の心房を分けている筋肉の壁。

側副血行路(そくふくけっこうろ)

主要血管が閉塞された時、近くの細い血管を通して血液が、循環する事。

た行

体外循環(たいがいじゅんかん)

器械的なポンプ、すなわち人工心肺等で行う体外の血液循環。この方法は心臓自身の外科手術の際に行われる。

体循環(たいじゅんかん)

肺を除く身体の全ての部分を巡る血液循環の事で、左心室から流れ出た血液が体内を經由して右心房に戻ってくるまでの循環。

大静脈(だいじょうみやく)

体内からの酸素化されていない血液(静脈血)を右心房へ運ぶ二本の大静脈の一つ。上大静脈は、頭部、頸部、胸部からの血液を、そして、下大静脈は、腹部や脚部からの静脈血を受ける。

大動脈(だいでうみやく)

左心室より血液を受ける主幹動脈で、多くの枝血管が分かれ、肺を除く身体全ての部分へ血流を供給している。

大動脈弓(だいでうみやくきゅう)

大動脈の一部で心臓の上部を杖の握り状に曲線を描いた部分を示す。

大動脈縮窄症(だいでうみやくしゅくきょうしょう)

心臓から体内へ血液を運ぶ主幹動脈(大動脈)の血管壁が圧迫され細くなったりして内腔が狭くなること。先天性心臓病の一つである。

大動脈造影(だいでうみやくぞうえい)

大動脈とその枝血管に対する造影検査のこと。造影剤を注入し、X線で観察する。

大動脈弁(だいでうみやくべん)

大動脈と左心室の接合部に位置している三枚の膜からなり、心臓から大動脈内への血流をコントロールし、逆流を防ぐ。

大動脈弁狭窄症(だいでうみやくべんきょうさくしょう)

大動脈弁の開き方が狭い事で血流が制限されてしまう。原因としてリウマチ熱その他がある。

大動脈弁不全症(だいでうみやくべんふぜんしょう)

左心室と大動脈の間にある大動脈弁が、不完全な閉じ方をするために血液の逆流を起こしてしまう事。

大在静脈(だいふくざいじょうみやく)

胸部の太い静脈で、冠動脈バイパスとして使用される。

WPW 症候群(だぶりゅーぴーだぶりゅーしょうこうぐん)

正常な電気系統のほかに副伝導路が先天的にあるために、電気信号が速く心房から心室へ伝わるほか、しばしば頻脈性不整脈を起こす。

腸骨動脈(ちょうこつどうみやく)

骨盤胸部に血液を送っている太い血管。

洞性徐脈(どうせいじょみやく)

脈は規則的だが正常より遅くなる状態(50拍/1分未満)。

洞性頻脈(どうせいひんみやく)

脈は規則的だが正常より速くなる状態(100拍超/1分)。

洞停止・洞房ブロック(どうていし・どうぼうぶろっく)

「洞停止」や「洞房ブロック」はほとんどの場合、高齢者や虚血性心疾患の患者さんに起こります。進行すると長時間の心停止をきたし、失神や、突然死の原因となります。ペースメーカーによる治療が必要になることもありますので、医療機関を受診しましょう。

洞停止・洞房ブロック・洞不全症候群(どうていし・どうぼうぶろっく・どうふぜんしょうこうぐん)

洞停止は洞房結節が一時的に電気信号を発生しなくなるために起こる不整脈。洞房ブロックは洞房結節の機能は保たれているが、電気信号が伝わらない状態。進行すると長時間の心停止をきたすこともあり、ペースメーカーの適応となる。どちらも洞不全症候群に含まれる。

洞房結節(どうぼうけっせつ)

右心房にあり心臓の発電所の役割をしている。健康な心臓ではここから規則的に電気信号が発生し、心臓の拍動が起こる。

動脈(どうみやく)

心臓から身体全体へ運ぶ血管で、心臓から肺へ静脈血を運ぶ肺動脈を除き酸素化された血液を運ぶ。

動脈狭窄症(どうみやくきょうさくしょう)

動脈壁が厚くなり硬化し弾性を失う事によって起こる病気の種類。原因として、繊維質が脂質の累積によるものがあげられる。

動脈血(どうみやくけつ)

酸素化された血液。血液は、肺で酸素化され、肺から肺静脈を通過して左房へ戻り、左心室より全身の動脈を送り出される。

動脈硬化(どうみやくこうか)

高血圧、糖尿病、高脂血症、タバコなどが原因で動脈の内側にコレステロールや脂肪などがたまり、血管の弾力が失われた状態。

動脈内膜(どうみやくないまく)

血管内皮(けっかんないひ)を含む血管の内側の層。

トレッドミル試験(とれっどみるしけん)

運動負荷試験のひとつで、ベルトの上を歩きながら心電図の変化をみる。

な行

ニトログリセリン

血管の筋肉をゆるめる薬で、狭心症や冠動脈スパズムの治療薬として用いられる、一種の血管拡張剤。

脳梗塞(のうこうそく)

血栓が血流により運ばれて脳動脈につまる状態。

は行

肺うっ血(はいうっけつ)

心不全などで血液がスムーズに流れなくなった結果、肺に血液がたまり、水分が肺にしみ出して酸素の交換がうまくできなくなった状態。

肺静脈(はいじょうみやく)

肺からの酸素化した血液を左心房に送る血管。

肺塞栓症(はいそくせんしょう)

通常、足や骨盤の静脈内で発生した血液の固まりが流出し、肺の動脈の一部に詰まってしまう事。この疾患は、全く症状のない場合と肺循環を著しく悪化させる場合とがある。

肺動脈(はいどうみやく)

右心室から肺へ静脈血を運ぶ血管。動脈は通常動脈血を運ぶがこの血管は身体の中で唯一の静脈血を運ぶ動脈。

肺動脈弁(はいどうみやくべん)

肺動脈と右心室の間にある三枚の膜よりなる弁。右心室が収縮すると肺動脈弁が開き血液は肺動脈を通して肺に流れる。右心室が拡張している間は、弁は閉じ血液の逆流を防ぐ。

ヒス束(ひすそく)

房室束 (Atrioventricular Bundle)あるいは、A-V Bundle とも呼ばれる。心房下部の房室結節 (A-V Node)より、心室へいたる筋組織の束で、心臓が収縮するための房室結節からの刺激を心室の筋肉に伝える。

頻拍(ひんぱく)

洞房結節以外の場所から電気信号が頻回に発生することによる不整脈。

頻脈(ひんみやく)

不正常に速い心臓の鼓動。心悸昂進症(シンキョウシンショウ)ともいう。通常は一分間に 100 以上の脈拍をいう。

不安定狭心症(ふあんていきょうしんしょう)

新たに発症した安静時狭心症や、発作の回数が増えてきたり、発作止めの薬が効かなくなってきた軽い動作で発作が起こるようになった状態。心筋梗塞に移行する心配がある。

負荷心電図(ふかしんでんず)

患者が運動している間に測定される心電図。運動には、トレッドミル上のジョギング、小さなステップの上り下り、自転車のペダル漕ぎ等がある。

不整脈(ふせいみやく)

心拍の異常はすべて不整脈と呼ぶ。

ペースメーカー(ペーすめーか)

心臓の電気信号が伝わらないために心臓の機能がわるくなっている場合、人工的に歩調取りをしてくれる器械を心臓に植込む。その器械のこと。

ヘパリン・抗凝固剤(へぱりん こうぎょうこざい)

抗凝血作用を持つ多糖類で、プロトロンピンがトロンビンに転化する反応を阻止するのでトロンビン酸素とも呼ばれている。既に血管内に存在する血液凝固がそれ以上大きくならないようにする場合にも使われる。

弁不全(べんふぜん)

弁が完全に閉鎖しないため血液の逆流を招く。

房室結節(ぼうしつけっせつ)

洞房結節から発生した信号を心室へ伝える中継所の役割をするところ。

房室ブロック(ぼうしつぷろっく)

「房室ブロック」は、心房から心室へ電気信号が伝わらない状態で、健康な人でも夜間に起こることがある。より心室に近い場所で電気がとだえると、失神や突然死の原因となることがある。そのような場合にはペースメーカーによる治療が必要適応となることがあるので、医療機関での検査が必要。

発作性上室性頻拍(ほっさせいじょうしつせいひんぱく)

心臓の電気信号が心房を中心に複数の経路を伝わってグルグルまわりをしている状態。

ホルター心電図(ほるとーしんでんず)

携帯型でからだに装着して24時間連続して心電図を測定する方法。診断のためには症状出現時の心電図記録が必要であり、夜中に発作が起こりやすい場合や自覚症状のあまりない例に用いられる。

ま行

マスター2 階段昇降試験(ますたーにかいだんしょうこうしけん)

運動負荷試験のひとつ。階段の上り下りをした前後の心電図変化を記録する。

ら行

瘤(りゅう)

疾患、外傷あるいは先天性異常により、動・静脈の壁が弱り風船状に拡張したもの。

労作性狭心症(ろうさせいきょうしんしょう)

運動や労作時にいつもより酸素を必要としているのに血液の供給が間に合わなくて起こる狭心症。